

戦後文化復興にかけた想い――



令和6年度大嶺薫コレクション展 3/25(火)～5/11(日)

戦後80年 大嶺薫と東恩納博物館



会場 沖縄県立博物館・美術館 3階 博物館 特別展示室2

開館時間 9:00～18:00(金、土は20:00まで)

観覧料 博物館常設展の観覧料でご覧になれます。



大嶺薫略年譜

- 1905年 大宜味村根路銘に生まれる
- 1945年～ 東恩納博物館館長就任
- 1950年～ 大東糖業等で役員を務める
- 1953年 文化財保護法制定にかかわる
- 1954年～ 文化財専門審議会専門員
- 1970年 病没
- 1973年 大嶺薫美術館設立
- 1985年 沖縄県立博物館に大嶺薫コレクションが寄贈される

大嶺薫(1905-1970)は、沖縄における戦後最初の博物館「Okinawan Exhibit(沖縄陳列館、のちの東恩納博物館)」の館長を務め、戦後の文化復興に貢献した人物です。1945年、大宜味村で終戦を迎えた大嶺は、古美術の造詣の深さを買われ米海軍少佐・ハンナとともに「Okinawan Exhibit(沖縄陳列館)」の設立に尽力します。この陳列館は後に沖縄民政府に移され「東恩納博物館」となりますが、大嶺は1953年に同館が合併閉館するまで館長を務めました。

館長在任中、大嶺は資料収集活動や普及活動を精力的に行い博物館の基礎作りに尽力しました。琉球王国の歴史や文化を象徴する首里城正殿鐘(通称:万国津梁の鐘)や首里城正殿大龍柱残欠等は、大嶺とハンナらによって収集されました。大嶺らの博物館活動は、戦後混乱期における文化財の流出を阻止し、保護につながったと言われています。大嶺らによって集められた琉球の文化遺産は博物館活動の中で広く公開され、様々なものを失った沖縄の人々の心の支えとなり、同時に再び歩みだす希望となりました。これらの活動は戦後の文化復興において高く評価されるものです。

本展では、戦後80年の節目と大嶺が初代館長を勤めた「Okinawan Exhibit」の開館80年の節目に合わせて「戦後80年 大嶺薫と東恩納博物館」をテーマに、「東恩納博物館収蔵品台帳」から新たに分かった戦後直後の資料収集の様子等を紹介するとともに、東恩納博物館を見学した感想をつづった「石川市婦人部長石川朝子氏からの手紙」や大嶺が館長を退任する際に贈られた「感謝状」等から、大嶺と東恩納博物館の足跡について紹介します。

観覧料Admission Fee

- ・一般 Adult ¥530 (420)
- ・高大生 (H.S & Univ. and Col. Student) ¥270 (220)
- ・小中生 (県外) E.S & J.H.S Students outside Okinawa ¥150 (120)
- ・小中学生 (県内)、70歳以上、身障者手帳をお持ちの方と介助者の方一名まで無料
E.S & J.H.S Students in Okinawa, over 70 y.o, Persons with disability and one caretaker